

# 尾形美穂の家庭科（第6学年）研究計画

## 1 本研究で目指す子ども

家庭科は、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度を育成する教科である。中教審答申では、「家庭生活と社会とのつながりを重視し、学習を通して資源や環境、少子高齢化社会に配慮した持続可能な社会を構築するための力、他者と共生し自立して生活する力の育成をする」ことが求められている。さらに、「生活における知識・技能を科学的な根拠に基づいて理解させ、問題解決的な学習を一層充実させる」ことも求められている。

これまでの家庭科の学習では、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、自分の生活に活用できる内容の充実が図られてきた。この点においては、子どもの学習への関心や有用感が高いという成果が見られる。

しかし、これからの家庭科においては、持続可能な社会を構築する視点で、生活しようとする工夫のできる学びが必要である。そのために、各教科等との横断的な学習で、持続可能な社会の構築という「見方・考え方」を働かせる基盤をつくり、授業を展開する。具体的には、社会の問題点と身近な生活の営みとを関連付けた学習内容を構想し、単元開発を図る。

また、昨今は機械化が進み、教科書の内容にある知識・技能と子どもの実生活には、隔たりが見られるようになってきた。隔たりがあることで、学校で学習したことを家庭で活用する機会が失われていっている。その隔たりをなくすためには、実習や観察・実験を通して、知識・技能を科学的な根拠に基づいて理解させる必要がある。科学的な根拠に基づいた理解は、生活場面において再現性が高く、機械化されて見えていない部分の仕組みを明らかにすることができる。このことが、機械化による便利さを理解させることになり、子どもは、生活の様々な状況において学習した内容を活用できるようになる。そのために、科学的な根拠に基づいた問題解決的な授業を展開する。

これらの改善策をもって私は、**科学的な根拠に基づき、自分の生活と社会の問題点とのつながりを考えながら、解決策を見だし自分の生活を見直す子ども**を目指す。

## 2 本研究で育成する資質・能力

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の生活と環境とのかかわりや環境に配慮した生活の仕方に関する知識・技能</li> <li>○家庭生活が地域の人々とかかわりで成り立っていることに関する知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活の問題点について多角的にとらえ、解決方法を構想する力</li> <li>○実習や実験・観察の結果等について考察したことを表現する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活をよりよくしようとする実践的な態度</li> <li>○家族や地域の人々とかかわり、協力しようとする態度</li> </ul>

## 3 主張する働き掛け

子どもは、これまでに家庭科の題材で採り上げた衣食住に関する知識・技能を身に付けている。しかし、できることが増えたという有用感にとどまり、自分の生活と社会の問題点とが、どうつながっているのかということまでは考えていない。そこで、社会の問題点につながる他教科等の学習を行う。

他教科等の「見方・考え方」をもち、資質・能力が育成された子ども（C0）に、次のように働き掛ける。

### 働き掛け1

**自分の生活の仕方の動画を見せ、実習や観察・実験の場を設定する。**

自分の生活の仕方に疑問をもたせ、社会の問題点とのつながりに気付かせるための働き掛けである。

まず、子どもに自分の生活の仕方の動画を見せ、気が付いたことを問う。それは、子どもに自分の生活の仕方の事実に出会わせ、自分の生活の仕方が、社会の問題とつながっていることに気付かせるためである。次に、実習や観察・実験を行わせる。それは、科学的な根拠に基づいて、問題点に気付かせるためである。子どもは、自分の生活の仕方を見て、気が付いたことを話す。そして、子どもに、動画の様子と実習や観察・実験の結果を考察させる。他教科等の学習をしている子どもは、**持続可能な社会の構築に着目したり、自分や家族の生活とを関連付けて考えたりする**という「見方・考え方」を働かせ、自分の生活の仕方に疑問をもち、考えたことを書く（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③態度）。

そのような子どもに、次のように働き掛ける。

### 働き掛け2

**自分の実際の生活の仕方と実習や観察・実験の結果から考察したことを発表させ、何を考えたいかを問う。**

自分の生活と社会の問題点とをつなげて考えさせ、課題を設定させるための働き掛けである。子どもに、動画の様子と実習や観察・実験の結果の考察を発表させる。次に、子どもに考察から言える問題点を問う。子どもに問題点についての所在を明らかにし、問題意識を明確にするた

めである。子どもは、**持続可能な社会の構築に着目したり、自分や家族の生活とを関連付けて考えたりする**という「見方・考え方」を働かせ、自分の生活の仕方と実習や観察・実験の結果から自分の生活と社会の問題点とがつながっていることに気付く。そのような子どもに、これから考えたいことは何かを問う。

子どもは「自分たちの生活で解決（改善）できることは何か」などと、学習課題を設定する。

### 働き掛け3

**学習課題を解決するために、どのような方法が考えられるか問う。**

学習課題について解決のための見通しをもたせ、解決策を考えさせるための働き掛けである。

学習課題を解決するために、まずは、どのようなことを考えなければいけないのか全体で共有する。子どもが、自分の生活と社会の問題点とをつなげて、解決策に見通しをもつことができるようにするためである。子どもは、自分の実際と実習や観察・実験の結果を想起して意見を出し（①**知識・理解**）何について解決すればいいのか見通しをもつ。

解決策を考える視点を共有し、見通しをもった子どもに、小グループで解決策を話し合わせる。小グループは、目的別グループとする。**持続可能な社会の構築に着目する**という「見方・考え方」を働かせ、自分だけが解決策を構想し実践しても、持続可能な社会は成り立たないということから協働性を発揮し、解決に向かわせるためである。解決方法をタブレット端末で調べてもよいこととする。それは、子どもの乏しい経験では、思考が広がらない可能性があるからである。子どもに、話し合いで出たアイデアや調べたことの中から、自分にできることは何か検討するように指示する。それは、働き掛け4の解決方法を試すことや実践につなげるためである。子どもは、**自分や家族の生活とを関連付けて考える**という「見方・考え方」を働かせ、自分の生活を見直しながら、自分にできる解決策を考える（②**思考力・判断力・表現力**、④**協働性**、⑤**ツール活用能力**）。

そのような子どもに次のように働き掛ける。

### 働き掛け4

**解決策の試す場を設定し、解決策が適切であったか問う。**

子どもに解決策が適切かどうか検討させ、解決策を見いださせるための働き掛けである。

子どもに考えた解決策を小グループで試させる。子どもは、自分にできることを試す（①**知識・技能**）。子どもに試している様子を互いに動画で撮影させたりするなどして、働き掛け1の自分の実際と実習や観察・実験したものと比較させる。そして、解決策は適切であったか問う。解決策が適切であるのか検証させるための働き掛けである。子どもは、**持続可能な社会の構築に着目する**という「見方・考え方」を働かせ、試した解決策を検証・評価し、その適性やさらなる改善点などを考える（②**思考力・判断力・表現力**、⑤**ツール活用能力**）。その後、各グループで試したことと検証結果等とをワールドカフェ形式で、交流させる。それは、自分たちが試していない方法を共有させ、様々な工夫や解決方法があることを理解させるためである。子どもは、試した解決策を実際に使った道具や動画や写真などで、他のグループに伝える。

そのような子どもに次のように働き掛ける。

### 働き掛け5

**学習して分かったこと・思ったことを問い、振り返りをさせる。**

解決策を見いだしたことを自覚させ、学習の有用感を高めさせるための働き掛けである。

子どもに、学習を通して分かったことや思ったことを問う。子どもは、自分の実際と科学的な根拠に基づいた社会の問題点とを想起し（①**知識・技能**）、学習したことをワークシートにまとめていく。子どもは、学習のまとめを通して、持続可能な社会を構築する一員として、社会の問題に配慮した生活をしようとする（③**態度**）。

この一連の学習の過程を通じた姿が目指す姿の**自分の生活と社会の問題点とのつながりを考えながら、解決策を見だし自分の生活を見直す子ども**（C<sub>n</sub>）である。

## 4 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したC<sub>n</sub>になったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け4と働き掛け5を受けて、自分にできる解決策を見いだしたかどうかを試しの活動の様子や発言、ツールの記述、ワークシートの記述から判断する。
- ② 働き掛け1、2、3、4を受けて、「見方・考え方」を働かせているかを、話し合いの様子や発言、記述から判断する。
- ③ 働き掛け1、3、4を受けて、想定した資質・能力を発揮することができたかを、話し合いの様子や発言、記述から検証する。

## 5 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業 (7月) 「その生活の仕方、だいじょうぶ？ - 生活の仕方と水 -」 (5時間)
- (2) 中間検討会 (9月) 「“もったいない” でエコ調理♪ - 食生活と省エネ -」 (6時間)
- (3) 初等教育研究会 (2月) 「素晴らしきかな「共生」は!! - 身近の人々との生活と環境・福祉 -」 (6時間)